

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第40回（平成30年度第1回）理事会議事録

日 時：平成30年5月25日（金） 13：00～17：30

場 所：AP品川アネックス 地下1階 M+Nルーム

東京都港区高輪3丁目23-17 品川センタービルディング地下1F

出席者：檜山英三（理事長・第61回学術集会会長）

堀部敬三（副理事長）

足立壯一、天野功二、井上雅美、今泉益栄、大植孝治、大賀正一、小野 滋、

上條岳彦、上別府圭子、菊田 敦（第62回学術集会会長）、木下義晶、副島俊典、

田尻達郎、田中祐吉、堀 浩樹、真部 淳（以上理事）

小林正夫、仁尾正記（監事）

石井榮一（第59回学術集会会長）

細井 創（第60回学術集会会長）

井上 健、康 勝好、滝田順子、松本公一、盛武 浩、米田光宏（以上オブザーバー）

欠席者：西川 亮（理事）

越永従道（次期監事・オブザーバー）

議 長：檜山理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は19名中18名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 前回理事会議事録（案）の確認

議長より、前回議事録（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者の件

真部庶務・財務委員長より、資料をもとに、入会申請者27名が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

2. 休会申請者2名の件

真部庶務・財務委員長より、資料をもとに、休会申請者2名が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

3. 平成29年度事業報告（案）の件

檜山理事長より、資料をもとに、平成29年度事業報告（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

4. 平成30年度事業計画（案）の件

檜山理事長より、資料をもとに、平成 30 年度事業計画（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、学術集会事業支出は 6,000 万円に修正することとして承認された。

5. 平成 29 年度決算書及び第 59 回学術集会決算書の件

真部庶務・財務委員長より、資料をもとに、平成 29 年度決算書について説明がなされた。

その後、石井第 59 回学術集会会長より、資料をもとに、学術集会決算書について説明がなされ、監事より会計監査報告がなされた後、議場にその承認が求められたところ、厚生労働省委託事業に関しては詳細が分かるように別紙を設けることとし、承認された。

6. 平成 30 年度予算書の件

真部庶務・財務委員長より、資料をもとに、平成 30 年度予算書について説明がなされ、議場にて討議がなされたところ、学術集会事業の収入及び支出を 6,000 万円に修正し、緩和ケア研修会は 2 回開催に修正し、各項目について再確認することとなった。（6 月 6 日開催の理事会メール会議にて確認された。）

また、小児血液・がんセミナーに関して以下の討議がなされた。

- ・全国 7 地区へ各 10 万円の予算分配では開催費用が足りないとの意見が各地区世話人から出ており、教育・研修委員会では、開催地域を減らすことで、1 地域への予算配分を大きくすることを検討している。

- ・小児血液・がんセミナーは、各地域の研修会を将来的には学会の地方会として位置づけられるような体制構築を目指して始めており、学会が支援する開催地域を減少させるべきではない。

- ・小児血液・がんセミナーの継続性について、議場より質問があり、教育・研修委員会で各地域の状況を調査してから検討することとなった。

- ・各地域の研修会を将来的に学会の地方会へ位置付けるかどうかについて、議場より質問があり、教育・研修委員会で各地域の状況を調査してから検討することとなった。

討議の結果、開催地域は減らさないこととする。予算は修正せず、今後の各地域の研修会への支援のあり方及び地方会とするかを含めた方向性について、教育・研修委員会で調査・検討することとする。追加予算が必要となる場合には理事会で検討することとなった。（6 月 6 日開催の理事会メール会議にて確認された。）

7. 新評議員承認の件

木下評議員等資格審査委員長より、資料をもとに、本年度の評議員申請者 4 名について、委員会審査がなされ、会員歴が 8 年に満たない 1 名を除く 3 名について、資格を満たしていると判定したため、3 名の評議員認定について議場に承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

今後、会員歴が条件に満たない場合は、委員会審査前段階で申請を受理しないこととなった。

また、議場より、看護領域では会員歴 8 年の条件を満たす会員はほとんどいないため、緩和要件を検討いただきたいとの意見があり、次期委員会での検討事項として申し送ることとなった。

8. 総会欠席の正当な理由に関するご意見について

木下評議員等資格審査委員長より、評議員より、定款施行細則第 3 条第 2 項、総会欠席の正当な理由に関する細則の妥当性に関する意見書が届いたことが説明され、議場にて以下の討議がなされた。

- ・本細則は正式な手順を経て改正されている。
- ・評議員は、本会の規則及び細則を理解した上で就任されているはずである。
- ・社員総会へ出席することは評議員の職責であり、本細則は欠席者を罰するものではなく、出席を促すことを目的としていることを十分に理解されたい。

討議の結果、評議員等資格審査委員会にて回答を作成し、意見者に回答することとなった。(6月6日開催の理事会メール会議にて確認された。)

9. 定款施行細則第24条の改正について

議長より、定款施行細則第24条本文について、以下に示すとおり、「第49条」の文言を「第43条」に改正することが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

(現行) 定款施行細則 (細則の改廃)

第24条 この細則の改廃は定款第49条により理事会の議決を経て、理事長が総会に報告する。

(改正案) 定款施行細則 (細則の改廃)

第24条 この細則の改廃は定款第43条により理事会の議決を経て、理事長が総会に報告する。

10. 個人情報取り扱い及び評議員資格審査について

木下評議員等資格審査委員長より、標記事項について、評議員等資格審査委員会にて委員会審査がなされたが、評議員等審査委員会では判定困難であることが報告された。次回以降に、資料をもとに理事会審議することとなった。

11. 認定外科医資格更新の件

井上専門医制度委員長より、本年度小児がん認定外科医の資格更新対象者21名に関して、委員会において、提出書類をもとに厳正に審査した結果、以下の審査結果が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

資格更新者 10名

資格更新辞退者 11名

また、小児がん認定外科医の認定・更新要件として、がん治療認定医の暫定教育医制度終了後、がん治療認定医資格を取得する必要性が生じる妥当性について意見書が届いたことが説明され、専門医制度委員会の回答(案)が示された後、議場にて以下の討議がなされた。

- ・暫定教育医は資格ではないため、回答の文言を修正する。
- ・今回の資格更新辞退者でがん治療認定医を所持していないために辞退した人数について議場より質問があり、6名であることが回答された。
- ・研修施設認定の緩和要件が無くなる2022年にも同様の問題が起こることが予想されるため、早めに対応を検討する必要がある。
- ・研修施設認定に関しては、施設同士の連携を認める方向も検討してはどうか。

討議の結果、上記の修正をし、専門医制度委員会の回答(案)にて回答することとなった。

12. 研修施設資格更新の件

井上専門医制度委員長より、本年度小児血液・がん専門医研修施設の資格更新対象施設8施設に関して、委員会において、提出書類をもとに厳正に審査した結果、以下の審査結果が示され、議場に

その承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

資格更新施設

6 施設

資格更新辞退施設

2 施設

13. 研修集会資格更新の件

井上専門医制度委員長より、本年度研修集会の資格更新対象 2 集会に関して、委員会において、提出書類をもとに厳正に審査した結果、以下の審査結果が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

資格更新集会

2 集会 (2 単位認定)

14. 小児がん認定外科医新規認定の件

井上専門医制度委員長より、小児がん認定外科医への新規認定申請者 4 名に関して、専門医制度委員会にて提出書類をもとに厳正に審査した結果、認定要件を満たしているものと判定したため、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

15. 研修施設新規認定の件

井上専門医制度委員長より、研修施設への新規認定申請施設 1 件に関して、専門医制度委員会にて提出書類をもとに厳正に審査した結果、認定要件を満たしているものと判定したため、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

16. 研修集会新規認定の件

井上専門医制度委員長より、本年度は研修集会への新規認定申請はないことが報告された。

17. 小児血液・がんみなし指導医認定の件

井上専門医制度委員長より、小児血液・がんみなし指導医への新規認定申請者 2 名に関して、専門医制度委員会にて提出書類をもとに厳正に審査した結果、認定要件を満たしているものと判定したため、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

また、本年度の第 5 回専門医試験の実施予定について説明がなされた。

18. 第 30 回日本医学会総会の学会単位認定要望について

井上専門医制度委員長より、第 30 回日本医学会総会より本会専門医制度単位認定の要望があり、専門医制度委員会にて審査した結果、研修単位の認定要件である小児血液・がんに関する集会との認定要件を満たしていないものと判定したことが報告されたところ、議場にて以下の討議がなされた。

- ・がんに関する演題が 2 演題入っている。
- ・小児血液・がんに関する演題を増やすことを要望してもいいのではないか。
- ・今回認めた場合でも、次回も認めるわけではなく、都度審議することとする。
- ・日本医学会分科会として連携・協力することは重要と考えられる。

討議の結果、連携・協力の重要性を考慮し、その開催規模から 5 単位を認定することとなった。

19. 第 30 回日本医学会総会への特別展示出展について

議長より、第30回日本医学会総会より、分科会特別展示の出展有無について連絡があったことが報告され、議場に意見が求められたところ、出展費用について確認することとして、継続審議事項となった。

20. SIOP 2018 エキジビションブース出展について

堀国際委員長より、SIOP 2018 エキジビションブース出展に関して、資料をもとに説明がなされ、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

- ・非営利組織の出展費用は9m² (shell scheme) US\$1,500。
- ・1出展で2名参加可能。
- ・複数の公益団体でシェアした場合、12m²でUS\$2,200。

また、日本小児がん看護学会の承認が得られた場合、日本小児がん看護学会と共同出展することについて討議がなされ、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。その場合の費用負担は、本会がUS\$1,500、日本小児がん看護学会がUS\$700とする。

21. ホームページでの SIOP2018 広報について

堀国際委員長より、資料をもとに、本会ホームページへのSIOP2018 バナー掲載要望があったことが報告され、議場にて討議がなされたところ、本会ホームページへのバナー掲載費用20万円を支払ってもらうこととして承認された。

22. 投稿規定改正について

田中医学雑誌編集委員長より、投稿規定改正案が示されたところ、議場にて以下の討議がなされた。

- ・「内容に応じて施設倫理委員会などの審議を経たものである旨を記載すること」と追記されているが、倫理審査が必要となる論文について詳細に記載すべきではないかとの意見があったが、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針をよく読んでいただくこととして、さらに必要となった場合には記載することとした。
- ・個人が特定されるような情報を記載しないように配慮することと追記したほうがよい。
- ・二次出版に関しても追記した方がよいのではないか。

討議の結果、以上の追記に関して学会誌編集委員会で検討することとして承認された。

23. 総説など依頼論文の英文表記について

田中医学雑誌編集委員長より、J-stageで論文が公開される際、英文表記がないと英文画面で「No title in English」と表示され、内容が分からない状態となるため、総説などの依頼論文についても、タイトル・著者名・要旨を、原著・症例報告に準じて英文表記をお願いする（ただし、非会員は英文要旨なしでも可とする）ことが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

また、全英文論文に対して、英文校閲を中西印刷に1回5,000円で依頼していることについて、議場にて以下の討議がなされた。

- ・著者が会員の場合は、英文校閲費用を自己負担すべきである。

討議の結果、会員の場合は、英文校閲費用を自己負担することとして学会誌編集委員会で検討することとなった。

24. 保険診療委員会規程改正について

今泉保険診療委員長より、PCR-MRD 検査施設認定に関する業務について追記した保険診療委員会規程改正案が示され、説明がなされた後、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

25. 造血幹細胞移植の前治療に対するチオテパの早期承認の要望書提出について

今泉保険診療委員長より、標記審議事項について説明がなされ、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

また、未承認薬・適応外薬の包含 WG より、リツキサンの使用実態調査に関する進捗状況について質問があり、保険診療委員会にて対応中であることが報告された、

さらに、未承認薬・適応外薬の包含 WG より、レチノイン酸に関して申請先が誤っているため、正しい申請先に再提出するよう連絡があったことが報告され、保険診療委員会で対応することとなった。

26. 日本小児科学会小児慢性疾患委員会担当委員交代について

足立疾患委員長より、日本小児科学会小児慢性疾患委員会担当委員について、小原明委員の任期満了及び七野浩之委員より委員交代要望があったことが報告され、新委員長決定後に 2 名交代することが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

27. 利益相反取扱い細則及び申告書の改正について

天野利益相反委員長より、利益相反取扱い細則及び申告書の改正案が示され、議場にて以下の討議がなされた。

- ・第 60 回学術集会の演題登録から新様式に変更が可能か。
- ・JCCG より利益相反申告書の様式を統一してほしいとの要望があったため、日本医学会の様式で合わせてはどうか。

討議の結果、利益相反委員会で修正について検討することとなった。

28. Japan Cancer Forum 2018 共催について

議長より、Japan Cancer Forum 2018 共催に関して、資料をもとに説明がなされ、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

29. 日本医学会連合診療ガイドライン統括委員について

議長より、日本医学会連合診療ガイドライン統括委員長会議が新設されたことが説明され、その委員に新診療ガイドライン委員長を推薦することが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

30. 韓国小児科学会（ Korean Pediatric Society ）からの招待演者の推薦について

議長より、韓国小児科学会からの招待演者について以下 2 名の推薦者が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

推薦者 1 Status of Pediatric Hematopoietic Cell Transplantation in Japan に関して

橋井佳子先生（大阪大学 医学系研究科 小児科）

推薦者 2 Acute lymphoblastic leukemia in Japan に関して

康 勝好先生（埼玉県立小児医療センター 血液・腫瘍科）

31. 「国民向けがん情報」の提供状況と今後のあり方についての調査回答（案）について

大賀社会・広報委員長より、「国民向けがん情報」の提供状況と今後のあり方についての調査回答（案）が示され、社会・広報委員会審議中のため、次回理事会で検討することとなった。

32. 日本脳腫瘍学会学術集会共同シンポジウムについて

議長より、日本脳腫瘍学会より学術集会共同シンポジウム要望があったことが報告され、演者推薦については西川理事にて検討することとなった。

33. 新委員会体制について

議長より、標記事項について、資料をもとに説明がなされ、議場にて以下の意見開陳がなされた。

- ・委員会委員長は理事が担当すべきである。
- ・対外委員についても併せて検討すべきである。
- ・副委員長が次期委員長を務めて引き継げる体制が望ましい。

再度体制を検討することとし、次回理事会への継続審議事項となった。

Ⅲ. 報告事項

1. 庶務報告

真部庶務・財務委員長より、現在の会員状況について、資料をもとに報告がなされた。

また、2年以上会費未納による自然退会者について確認がなされた。

2. 学会誌編集委員会報告

田中学会誌編集委員長より、資料をもとに、J-GLOBALにて、著者抄録が一般公開されることが報告された。

3. 診療ガイドライン委員会報告

小野診療ガイドライン委員長より、診療ガイドラインからの引用・転載費用の請求に関して以下の報告がなされた。

- ・社内（MR）研修資料に対する図表1点、本文1部引用については利用料6万円とした。
- ・社内（MR）研修資料に対する図表1点については利用料3万円とした。
- ・社内（MR）研修スライドに対する図表1点、本文1部引用については利用料10万円とした。

4. 研究審査委員会報告

議長より、資料をもとに、研究審査状況が報告された。

5. 学術・調査委員会

堀部学術・調査委員長より、固形腫瘍登録の新システム導入に伴う疾患登録事業実施計画書改訂に

ついて、以下の報告がなされた。

- ・原則 IC の取得を必要とする。
- ・血液腫瘍性疾患の WHO 分類改訂（2017 版）に伴い、病名変更および取得項目の変更を行った。木下学術・調査副委員長より、新疾患登録事業について、以下の報告がなされた。
- ・HP にて新疾患登録事業に関するご案内を掲載する。

6. 教育・研修委員会

大植教育・研修委員長より、資料をもとに、以下の報告がなされた。

- ・本年度の学術集会時の教育セッション準備を進めている。
- ・2017 年度の全国 7 カ所の地区セミナーについて開催報告がなされた。
- ・緩和ケア研修会（CLIC）の開催準備を進めており、メール配信で広報する予定である。
- ・緩和ケア研修会（CLIC）については、緩和医療学会との費用負担等について今後協議していく。

7. 長期フォローアップ・移行期医療委員会

檜山長期フォローアップ・移行期医療委員長より、2018 年度第 1 回研修会を 7 月 7 日（土）～8 日（日）に名古屋学芸大学で開催することが報告された。

議場より、広島大学への事務局設置の経緯について質問があり、その経緯に関しては後日確認することとなった。

8. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会

細井会長より、準備状況について、資料をもとに以下の報告がなされた。

- ・プログラム概要について説明がなされた。
- ・タイムテーブルについて説明がなされた。

9. 第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会

檜山次期会長より、学術集会運営会社について、コンベンションリンケージと複数年契約によるコストダウンの交渉中であることが報告された。3 年間（2019～2021 年）継続での契約を想定しており、1 回 100 万円のコストダウン、3 年で 300 万円のコストダウンとなることを想定している。

今後、より詳細を詰めていく予定である。

10. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会

菊田次々期会長より、準備状況について、以下の報告がなされた。

- ・会期：2020 年 11 月 20 日（金）～22（日） ※翌 23 日（月）は祝日。
- ・会場：ビッグパレットふくしま（福島県産業交流館）

11. 小児・思春期・若年成人がん関連学会協議会

堀部副理事長より、資料をもとに、第 5 回小児・思春期・若年成人がん関連学会協議会を開催したことが報告された。

また、新たに「一般社団法人 A Y A がんの医療と支援のあり方研究会」を設立したことが報告された。

12. ファミリーハウス・フォーラム 2018 後援名義の使用について

議長より、資料をもとに、標記に関する本会の後援名義使用要望があり、承諾したことが報告された。

13. 第 19 回国際小児脳腫瘍シンポジウム後援名義の使用について

議長より、資料をもとに、標記に関する本会の後援名義使用要望があり、承諾したことが報告された。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。